

分担研究報告書

大麻乱用防止を目的とした啓発資料の作成

分担研究者：鈴木 勉（星薬科大学薬学部）

研究要旨

近年大麻の乱用が特に欧米を中心に増加し、大麻規制の緩和なども行われている。わが国においても大麻の生涯経験率が1.2%と増加している。そこで、大麻に関する知識を啓発し、多くの人々に大麻の作用やその危険性を理解して貰う必要がある。そのためには、啓発用資材が必要となるので、大麻とは何か、大麻の有害性と有益性の基礎と臨床、合成大麻、危険ドラッグ、医療用大麻、世界の大麻事情などを分かりやすくまとめた啓発用の本を作成することを本研究の目的とした。

A. 研究目的

最近、わが国においても薬物乱用の拡大、かつ低年齢化が報告されている。また、大麻による検挙者数も年々増加し、2017年には3,000名を超えている¹⁾。このような状況を改善するためには、薬物乱用、特に大麻に関する乱用防止教育の充実と共に、取締りの強化などが重要と考えられる。しかし、覚せい剤の乱用防止教育に比べ、大麻の乱用防止教育が十分とは言い難い。そこで、このような薬物乱用防止教育に資する教材を作成することは大変意義のあることと考えられるため、「大麻問題の現状」と題した小冊子を作成することとした。

B. 研究方法

小冊子「大麻問題の現状」の目次と執筆者の草案を平成30年10月4日に作成した。本草案に対して、班員から意見を募り、修正を重ねた。6回の修正を重ねて、「大麻問題の現状」の

目次と執筆者を決定した。

C. 研究結果

小冊子「大麻問題の現状」の目次と執筆者を以下のように決定した。

発行に際して(厚生労働省 医薬・生活衛生局 監視指導・麻薬対策課)

I 大麻とは(花尻(木倉)瑠理, 緒方 潤, 田中理恵)

1. 植物学からみた大麻
2. 大麻の成分について
3. 国際条約での規制
4. 大麻に関する国内の法律

II 大麻・フィトカンナビノイドの有害性と医薬品としての応用:基礎と臨床(山本経之, 山口 拓, 福森 良)

1. はじめに

2. 大麻/THC の作用
 3. カンナビジオール(CBD)の作用
 4. 大麻の依存性とその特性
 5. フィトカンナビノイドの医薬品としての有用性
 6. おわりに
- III 大麻による有害作用:臨床的特徴 (船田正彦, 松本俊彦)
1. はじめに
 2. 検索方法
 3. 大麻成分とその急性作用
 4. 大麻の慢性使用による影響
 5. 大麻使用と精神病の関連
 6. 心臓血管系と自律神経系への影響
 7. 呼吸器への影響
 8. 大麻使用と他の薬物乱用
 9. 青少年の大麻使用
 10. おわりに
- IV 大麻草由来成分やその類似成分を用いた医薬品 (鈴木 勉)
1. はじめに
 2. ナビキシモルズ (サティベックス®) の臨床
 3. ドロナビノール (マリノール®) の臨床
 4. ナビロン (セサメット®) の臨床
 5. おわりに
- V 大麻と危険ドラッグ (船田正彦)
1. はじめに
 2. 危険ドラッグとは
 3. 危険ドラッグの種類とその健康被害
 4. 危険ドラッグの包括指定
 5. 危険ドラッグと大麻
 6. おわりに
- VI 世界の大麻事情
1. 米 国 (富山健一, 船田正彦)
1. はじめに
 2. 米国の州における嗜好用の大麻使用の規制
 3. 大麻に関する規制と違反時の罰則
 4. コロラド州に見る大麻合法化の社会的状況
 5. まとめ
2. カナダ (鈴木 勉)
1. はじめに
 2. カナダの「改正大麻法」
 3. 今後の課題
 4. おわりに
3. 欧 州 (花尻(木倉)瑠理, 緒方 潤)
1. はじめに
 2. 産業用途の大麻について
 3. 嗜好用途の大麻について
 4. まとめ
- VII 大麻草およびその成分の医療での活用
1. 米 国 (船田正彦, 富山健一)
 1. はじめに
 2. 医療用大麻 (medical marijuana)
 3. まとめ
 2. カナダ (鈴木 勉)
 1. はじめに
 2. カナダの医療用大麻
 3. おわりに
 3. 欧 州 (花尻(木倉)瑠理)
 1. はじめに
 2. 欧州における医療向けの大麻関連製品
 3. まとめ
- VIII 大麻問題に関する施策と教育啓発の現状 (鈴木順子)
1. はじめに
 2. 本邦における大麻問題の現状
 3. 政府の薬物乱用防止5カ年戦略
 4. 国および地方自治体の薬物乱用防止に係

る啓発・教育施策

5. 代表的な関係団体等の取り組み

あとがき（井村伸正）

D. 考察

先進諸国における大麻の生涯経験率は米国で41.9%、フランスで32.1%、ドイツで25.6%、イタリアで21.7%、英国で31.0%と非常に高く、欧米における大麻乱用の深刻さが伺える。一方、日本における大麻の生涯経験率は1.2%と先進諸国に比べれば、低い値を示している。しかし、中枢刺激薬の生涯経験率が0.4%、MDMAが0.1%であり、大麻の生涯経験率が最も高い。したがって、大麻の乱用防止教育はますます重要となるので、その適切な教材が必要となる。そこで、小冊子「大麻問題の現状」を作成するために、まず目次を議論して内容を決定した。研究班の班員が各項目を担当し、研究成果と大麻に関する情報をまとめて小冊子「大麻問題の現状」とした。本冊子の体裁はA5判、130頁以内、並装、カバーなしとした。本冊子を2020年3月末までに作成して、厚生労働省関係、教育関係に配布して大麻の乱用防止教育に広く活用することを目指す。

カナダでは平成30年に大麻法が改正されたので、平成29-30年度は改正前後のカナダ・バンクーバーを訪問し、大麻関連施設を視察した。また、大麻に関連する資料を入手して、翻訳したものを資料として提出した。

E. 結論

本研究班の一部の成果と大麻に関する情報をまとめて小冊子「大麻問題の現状」として出版する。本冊子の体裁はA5判、130頁以内、並装、カバーなしとして2020年3月末までに作

成して厚生労働省関係、教育関係に配布して大麻の乱用防止教育に活用する。

F. 参考文献

1) 嶋根卓也：薬物乱用・依存状況等のモニタリング調査と薬物依存症者・家族に対する回復支援に関する研究。平成29年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業：H29-医薬-一般-001）研究報告書（2018）